

学会の20年の礎を築くために

| 三村 將 Masaru Mimura

このたび2023年6月、日本精神神経学会の理事長を拝命いたしました。DEI (Diversity, Equity & Inclusion) が社会全体にとっての、困難ですが到達可能な目標と認識されるなかで、本学会もさまざまな課題に直面しています。本学会は、患者さん、その人を取り巻く人々が健やかに希望をもって暮らせるよう、精神医学の深化、精神科医療の向上に中心的な役割を果たさなければなりません。

久住一郎前理事長の基本方針と精力的な活動を踏襲するとともに、迅速な意思決定と柔軟な規制緩和を旨とし、次世代へのトランジションを果たし、学会の20年の礎を築くために尽力する所存です。

具体的には、以下の当面の諸問題に取り組み、適切な解決策を図りつつ、大胆な改革を進めて参ります。

信頼される質の高い精神科医療の構築：精神科医療が精神疾患をもつ人のためのものであることを再確認し、その目的に資する学会活動を行います。特に、精神医療・福祉のあり方に関する常任委員会の活動を継続し、安心で質の高い精神科医療・福祉の推進に尽力します。また、『旧優生保護法』に代表される精神科医療の差別的歴史を真摯に受け止め、必要に応じて声明を発信していきます。AI・ITの利用や遠隔診療、ニューロモデュレーションなど、先端技術を精神科医療に積極的に応用していく流れを進める一方、これらの適切な使用や倫理的配慮の枠組みを十分に整備することも急務です。

精神医学研究の推進：現在、本学会員の研究成果は、学会機関誌（英文誌2誌、和文誌1誌）で発信され、国際的にも高い評価を得ています。この研究能力の維持と発展を支える体制をさらに充実させていきます。また、学会として種々の調査が実施できる基盤整備を行い、これらのシーズを活かした学会主導の多様な研究を増やしていきたいと思えます。

精神医学教育の充実：精神科専門医の重要性・必要性について、日本専門医機構へ積極的な提言を行っていきます。国民にとってわかりやすくバランスの取れた精神科専

門医制度の仕組みの整備に努め、高質な専門医の育成を進めます。研修プログラムをサポートし、専門医研修終了率と試験合格率の適切な向上をめざします。また、精神科専門医テキストの出版やe-learningコンテンツの充実を図り、取り組みやすい精神科医の生涯教育を体系化します。一方、医学教育における精神医学・精神科医療の重要性を発信し、卒前教育や初期研修における精神科研修を充実させます。

関連諸団体との連携強化：精神科領域の最大組織としての精神科七者懇談会と意見交換しながら、特に倫理的・社会的問題については国民や当局に積極的かつ迅速に意見表明することが重要です。サブスペシャルティ学会とも緊密に連携し、必要な情報を会員に提供するとともに、ガイドラインや提言についてもサブスペシャルティ学会との協働を図っていきます。

学会の組織強化：多様な背景（ジェンダー、年齢、所属機関、国籍など）をもつ会員が、それぞれの力を存分に発揮しつつも、建設的に協調できるような学会運営を推進します。2022年度・2023年度には精神科講座担当者会議の構成員（主任教授）が大幅に変わり、新旧の世代交代が進んでいます。当学会の各種役職についても、世代のトランジションを円滑かつ発展的に進めることが急務です。また、巨大集団である公益社団法人日本精神神経学会にとって適切な代議員定数を見極めて、定款を改訂する必要があります。会員に対しても理事会の内容をしっかりと報告し、学会の動きをわかりやすく周知していきます。理事会の機能を向上し、即応性と円滑な運営をめざします。特に、長時間に及ぶ理事会や70に及ぶ委員会のあり方を見直し、報告事項は簡略化し、審議事項には十分時間をかける体制を整備したいと思います。また、学会財務の規律ある運営を行い、各事業の収支相償を原則としていくことも重要です。

学会の20年の礎を築くために、会員の皆様からも忌憚のないご意見・ご要望をお寄せいただければ幸いです。